

日蓮大聖人御書全集

おおあまごぜんごへんじ

大尼御前御返事

新版
1224

おおあまごぜんごへんじ

大尼御前御返事

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

おおあま

弘安 3 年 ('80)

9 月 20 日

59 歳

大尼

獄

卒

閻

魔

おう

たけ

じゅつちよう

おもて

朱

差

ごくそつ・えんま王の、長は十丁ばかり、面はすをさ

まなこ

にちがつ

は

馬

鍬

こ

拳

し、眼は日月のごとく、齒はまんぐわの子のように、くぶし

たいせき

だいち

じゅね

うみ

浮

動

は大石のごとく、大地は舟を海にうかべたるようにうごき、

こえ

雷

鳴

声はらいのごとくはたはたとなりわたらんには、よも

なんみようほうれんげきよう

仰

そうら

南無妙法蓮華経とはおおせ候わじ。

にちれん

でし

うち

認

日蓮が弟子にてはおおせず。よくよく内をしたためて、

仰

被

そうら

脳

破

身

責

祈

おおせをかぼり候わん。なずきをわり、みをせめて、いの

そうら

りてみ候わん。たださきのいのりとおぼしめせ。これより

のち

後

おん 固

そうら

きようきようきんげん

後は、のちのことをよくよく御かため候え。恐々謹言。

くがつはつか

九月二十日

にちれん

かおう

日蓮

花押

おおあまごぜんごへんじ

大尼御前御返事